

トマト品種「りんか 409」の夏秋栽培における多かん水管理による増収効果

「りんか 409」の栽培でかん水量を対照の 1.0L/株/日より 50%増やすと、可販果収量が 15%増加し、不良果は減少する。なお、既慣行品種同様、節間長は短くなる。

農業研究センター高原農業研究所 (担当者: 田中陽子)

研究のねらい

夏秋トマトは、梅雨期から盛夏期という気象変化の激しい時期に栽培されるため、生産安定が課題であったが、近年「りんか 409」(サカタのタネ)が導入され、生産が安定してきている。

しかしながら、「りんか 409」は萎れやすく、水を多く必要とするなど、今までの品種とは特性が異なる傾向があり、「りんか 409」に適した管理方法が必要であると考えられる。このため、かん水量の違いが「りんか 409」に与える影響を明らかにする。

研究の成果

1. 「桃太郎サニー」(タキイ種苗)はかん水量を増やしても収量に大きな違いは認められないが、「りんか 409」は、かん水量を多くすると 1 果重が増加し、また、可販果率も向上するため、可販果収量は 15%増加する(表 1)。
2. 「桃太郎サニー」はかん水量を増やすと不良果数が増加するが、「りんか 409」は、かん水量を多くすると不良果が減少する(図 1)。
3. 「りんか 409」は「桃太郎サニー」と同様に、かん水量を増やすと平均節間長が短くなる(表 2)。

普及上の留意点

1. 本試験は、淡色黒ボク土、UV カット PO フィルム展張パイプハウスで実施(5 月 8 日定植、11 月 11 日収穫終了)。
2. 本試験は、かん水を 1.0L 区で 1.0L/株/日、1.5L 区で 1.5L/株/日、6 月 11 日から 9 月 26 日まで毎日行った。
3. 「りんか 409」は「グリーンセーブ」(タキイ種苗)、「桃太郎サニー」は「グリーンガード」(タキイ種苗)に接ぎ木して栽培した。

表 1 品種及びかん水量¹⁾の違いと収量 (2013 年)

品種	かん水量	総収量 (g/8 株)	可販果収量 (g/8 株)	可販果数 (果/8 株)	可販果率 (%)	可販果平均 果重 (g/果)
りんか 409	1.5L	75,430	61,320	291	80.6	211
	1.0L	69,322	53,422	268	75.8	199
桃太郎サニー	1.5L	63,163	39,686	200	63.1	199
	1.0L	60,565	38,238	193	63.2	198

1) 6/11～9/26 に実施。対照：1.0L/株/日、1.5 倍：1.5L/株/日。かん水チューブによるかん水。その他の栽培期間は天候に応じてかん水。

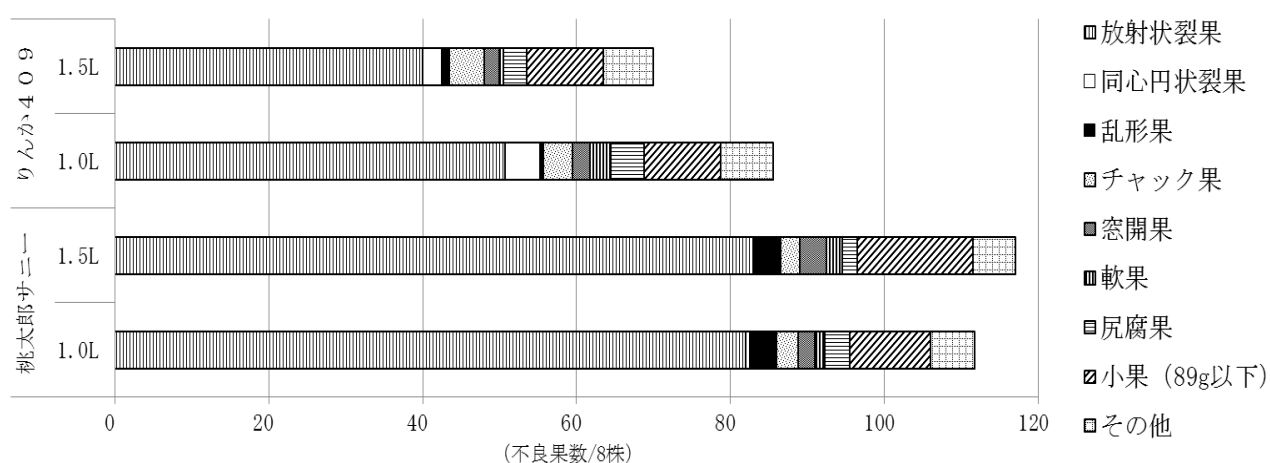


図 1 品種及びかん水量の違いと不良果 (2013 年)

表 2 品種及びかん水量の違いと生育 (2013 年)

品種	かん水量	平均茎径 ²⁾ (cm)	草丈 (cm)	平均節間長 (cm)
りんか 409	1.5L	1.12	352.1	6.3
	1.0L	1.11	382.5	6.8
桃太郎サニー	1.5L	1.27	364.4	6.4
	1.0L	1.26	392.0	7.0

2) 平均茎径：各果房下の節間茎径の平均